

令和3年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立 向陽 高等学校 学校長名： 前田 成穂 印

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の持つ能力を最大限に伸ばし、何事にも主体的に取り組む力を身につけさせる。 文化的遺産や伝統を尊重し、国際的な視野で考え行動する力を育てる。 基本的人権を尊重する態度を養い、豊かな情操を育む。
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	<p>1 確かな学力の向上に向けて、3つの柱を軸にして主体的で自律的な学習習慣を形成する。</p> <p>2 いじめを許さない学校づくりに取り組み、人権尊重の態度や人間関係形成能力、自尊感情、場に応じた判断力を育成するため、教育相談や信頼関係に基づく個に応じた生徒指導を充実する。</p> <p>3 全校で課題研究「KECRe (ケクレ Koyo Environment Challenges Research)」を円滑に実施し、確かな学力へとつなげる。</p> <p>4 情報化社会で活躍できる人材を育成するため ICT 教育を充実させる。</p>

中期的な目標	<p>1 生徒の主体的な学習と思考力を鍛える授業による高い学力の育成</p> <p>2 学校行事や体験活動を充実させ、豊かな人間性と逞しい心身の育成</p> <p>3 中高一体となったSSH事業及び国際理解教育(姉妹校交流等)の推進</p>
学校評価の結果と改善 方策の公表 の方法	<p>ホームページへの掲載</p> <p>P T A 役員会等での説明</p> <p>学校運営協議会での説明・協議</p>

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)		
重 点 目 標					年 度 評 価 (3 月 3 1 日 現 在)		
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 取 組	評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 方 策
1	生徒の授業への参加、取組姿勢は良好であるが、主体的に学んでいく態度と基本的な知識の定着の両方を充足させる工夫が必要である。主体的に学ぶ喜びを味わえるよう授業の質的改善に取り組む必要がある。	生徒自身が自己の目標に向かって学習方法や計画を考え、それに基づいて学習に取り組めるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 向陽手帳等を用いて、毎日の学習時間や学習内容を記録させ、それに基づいて学習計画を立てる習慣の確立 年2回の研究授業等の実施 家庭学習及び自主学習等の習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画の立案及び実行のためのアセンブリの実施 自主学習確立のための現職教育の開催 教科主任ヒアリングの実施 学習アンケートの家庭学習時間等の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 手帳等を活用し、学習計画を立てさせ、粘り強く取り組ませる指導を行った。 研究授業・協議を、年2回実施した。 新教育課程への対応のため教育課程の見直しを行った。70分授業から50分授業へと変更した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新教育課程での指導と評価の一体化に向けて、授業研究をさらに教科内で深化させる必要がある。次年度に向けて教務部長を中心に、生徒に何を学ばせるか、明確な目標を掲げ、研究授業や協議を行うよう計画している。
2	生徒の基本的な生活習慣はほぼ確立されているが、近年、SNS等におけるトラブルが発生しており、ネット上での人権課題や問題行動が散見されるようになっている。また、自尊感情の欠如による不登校やトラブルも散見される。	集団作り、仲間作りを通して、生徒一人一人が人権意識を持って行動するとともに、自身の行動に自信を持つことで自尊感情を持てるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事やクラス行事を充実させ、その体験や成果を外部に発信する。 進路指導等を通じた自己のキャリア形成にかかる教育の充実した指導 個人面談や説明会等の計画的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> クラス・学校行事の精選と見直し ホームページ等の活用 進路説明会等の計画的実施及び内容の充実 キャリア教育に関する現職教育 キャリアカウンセリング等に関する実践交流 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新を頻繁に行い、生徒の活躍や学校行事等の取組を掲載し、広く発信できた。 キャリアゼミナール等の実施により自己の在り方を考えさせたり、人権教育を通して、SNS等における情報リテラシーに取り組んだりした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のモチベーションを高め、学習計画を早くから立てさせ、自己目標の実現に取り組んでいく。特に部活動の時間を、本校の部活動指針をもとに指導し、部活動の練習内容を検討し、高いレベルでの文武両道を図る。
3	学習する内容を真面目に吸収し処理できるが、その内容を批判的に検証したり、発展的に考える態度や能力等について、より伸ばしていく必要がある。	理系のみならず、文系のKECReにおいても、学問探究的な態度の育成をするとともに、ここで学んだ方法論等を普段の学校生活の中で生かせるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> KECReの内容及び取組の見直しと、学校全体で取り組む意識の醸成 授業における対話やグループ学習のより積極的な活用 試験等、評価システムや評価内容等の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> KECReの成果発表会で自分たちの研究内容を正確に発表できる 授業の回数や時間の半分程度を対話型やグループ学習型の授業で実施 向陽手帳の活用やポートフォリオの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 課題探究活動に取り組み、生徒ポスター発表会等を通して、生徒の思考力や表現力を高めた。また、様々な社会の課題についてディベート形式で議論し、自分たちの考えを深めさせた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> SSHの第4期指定に向けてこれまでの取組の更なる充実と、地元大学との共同研究により、新たな取組を組み入れた内容にする。
4	ICT教育については、教員それぞれの工夫は見られるが、体系的なものは確立されていない。また、1人1台端末等の積極的な活用が必要である。	通常形態の授業とICTを活用した教育が融合され、生徒が効率よく学習できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ICTで使用するアプリケーションの活用と充実 ICT教育に関する現職教育の実施 ICT機器の普通教室等への設置とその活用 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒によるアプリケーションの活用と充実 年1回、ICT教育に関する現職教育の実施 普通教室へのプロジェクトの設置とその活用 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を積極的に活用し、課題配信やオンライン授業に取り組んだ。 スタディサプリを活用し学習だけでなく、日々の健康観察や様々なアンケートにも役立った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用を、研究授業に取り入れ、授業方法の充実に繋げていく。また、家庭学習(課題や宿題)にも活用できるよう、教員の技能を高めていく。

学校関係者評価
令和3年12月13日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会において、学校評価シートをもとに協議した。 生徒の課題探究活動に、高い評価をいただいた。また、何事にも一生懸命に取り組む生徒が多く、学校の雰囲気も素晴らしい、との意見もいただいた。 進路指導においても、国公立大学への進学や難関私立大学への進学などについても、生徒をよく伸ばしているとの意見があった。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部からの評価は、高いものであったが、これに甘んじることなく、生徒の能力や技術を高められるよう、学習活動や部活動、生徒会活動等に取り組んでいく。 <p style="text-align: center;">※ 学校評価アンケート結果はこちら</p>